

女性が働きやすい環境整備

- ・トイレ
- ・更衣室
- ・休憩室
- ・託児スペース など



事例集



農林水産省補助事業
「令和6年度担い手育成・確保等対策事業費補助金等（雇用就農緊急対策のうち女性の就農環境改善・活躍推進事業）」

女性農業者のグループの活動支援

- ・勉強会
- ・研修会の開催
- ・先進地視察
- ・農産物を使った商品開発の研究 など

はじめに

女性は基幹的農業従事者（※）の約4割を占める農業の発展に重要な存在であるほか、地域の活性化においても必要不可欠な役割を果たしています。したがって、女性が農業を行う上で、働きやすく、自分らしく活躍できる環境を整備していくことが農業や地域の将来において鍵となります。

農林水産省補助事業「令和6年度担い手育成・確保等対策事業費補助金等（雇用就農緊急対策のうち女性の就農環境改善・活躍推進事業）」では、女性が働きやすい就農環境の整備として、農業法人等（地域取組主体）への男女別トイレや更衣室等の整備・設置等を支援しました。本事業では、支援を行った農業法人等に対して一般事業主行動計画の策定をお願いしております。施設とともに就労条件双方の整備に取り組んだ農業法人等では、従業員の職場環境に対する満足度の向上や求人の際のPR効果、従業員間のコミュニケーションの充実につながっています。

また、女性農業者が連携した取組や活動は、女性農業者自身の能力の向上とともに、女性の経営発展や地域農業組織への参画にもつながっています。加えて、女性農業者間の活動は、次世代の育成・知見の伝承や女性農業者間のネットワークづくりの強化にもつながることから、本事業では女性農業者グループの活動を支援しました。

本事例集では、本事業を活用した各種取組を紹介します。ご紹介する取組事例を通じて、女性をはじめとする多様な人材が働きやすい農業現場の環境整備や女性農業者グループの活動の参考にしていただけますと幸いです。

本事例集は、農林水産省補助事業「令和6年度担い手育成・確保等対策事業費補助金等（雇用就農緊急対策のうち女性の就農環境改善・活躍推進事業）」の一環として制作しました。

※基幹的農業従事者とは農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査期日前1年間のふだんの主な状態が「仕事に従事していた者」のこと



農林水産省補助事業「令和6年度担い手育成・確保等対策事業費補助金等
（雇用就農緊急対策のうち女性の就農環境改善・活躍推進事業）」
地域取組主体一覧

目次

はじめに 1ページ

女性が働きやすい環境の整備について 3ページ

女性農業者グループの活動支援について 4ページ

女性が働きやすい環境の整備事例 5～10ページ
有限会社庄東ノーサン
株式会社Lien du coeur Fermie（リアンドゥクールフェルミエ）
岡田農園

女性農業者グループの活動支援事例 11～16ページ
EXPO2025
AGRI BATON PROJECT

特集ページ 17～18ページ
AGRI BATON PROJECTのこれまでの取組

女性が働きやすい環境整備について

基幹的農業従事者（※）の約4割が女性であるように、女性は農業の主要な担い手です。農業において、女性がこれからも長く生き生きと働くことができるように、そして、新たに農業に携わり、これからも農業に従事したいと思う女性が増えるようにするためには、農業現場における女性農業者の働きやすい環境づくりを進めることが急務です。

本事業では、全国各地の農業現場において女性の働きやすい環境を整備することを通し、女性の農業への呼び込み・定着を進め、女性農業者の確保、女性農業者の能力の発揮等を図ることを目的に、その環境整備の取組に必要な経費の補助を行いました。また、女性が働きやすい環境の整備には、設備設置の他、雇用条件や休暇の制度などといった労働条件等の整備も重要です。このため、本事業では、一般事業主行動計画の策定を要件とし、設備や就労条件など一体的な就農環境整備を行いました。

※基幹的農業従事者とは 農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査期日前1年間のふだんの主な状態が「仕事に従事していた者」のこと

一般事業主行動計画について

一般事業主行動計画とは、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律、次世代育成支援対策推進法に基づき、従業員の仕事と子育ての両立を支援するための雇用環境整備や、女性の活躍を推進するために策定する計画のことです。

上限
300万円

補助の対象となる活動

女性が働きやすい環境の整備

男女別トイレの整備・調達

託児スペースの設置・整備

更衣室の設置・整備

休憩スペースの設置・整備

高さが調整できる作業台、アシストスーツ等の確保

その他女性活躍に資すると事業実施主体（株）マイファームが認める施設等

上記のリース方式による導入

※汎用性が高く女性活躍への効果が低いと考えられる農業機械等については対象から除きます

環境整備の支援を受けた36地域取組主体において、

・男女別トイレ..... 32件	・休憩スペース..... 16件
・更衣室..... 11件	・託児スペース..... 2件
・高さが調整できる作業台..... 1件	・その他..... 1件 (男女別シャワー室)

が実施されました。その中から、3つの地域取組主体の事例を紹介します。

事例目次

- ・有限会社庄東ノーサン..... 5ページ
- ・株式会社Lien du coeur Fermie..... 7ページ
(リアンドゥクールフェルミエ)
- ・岡田農園..... 9ページ

女性農業者グループの活動支援について

全国各地の女性農業者グループの活動は、女性農業者の能力発揮や活躍の拠点となっています。また、経営や地域の課題解決の場であり、女性農業者同士のつながりの場でもあります。

本事業は、創意工夫を活かした女性農業者グループの活動への支援を通じて、女性農業者自身の能力発展とともに、女性の農業分野への呼び込み・定着を目指した事業です。

上限
50万円
または
100万円

支援の対象となる活動

女性農業者グループの活動支援

- 上限50万円：地域内で実施する女性農業者のグループの活動
- 上限100万円：都道府県域を越えて広域で実施する女性農業者グループの活動

【活動例】

農業経営や農産品目、女性農業者の発展に関わる研修会や勉強会の開催、先進地視察

地域や企業との協働等による農産物を使用した新商品・サービスの研究・開発

地域との協働等による地域振興に関わる取組

女性農業者グループの立ち上げ・開始

その他女性活躍に資すると事業実施主体（株）マイファームが認めるグループ活動

グループ活動の支援を受けた16地域取組主体において、
(上限50万円：12地域取組主体 上限100万円：4地域取組主体)

- ・会員募集、農業体験の受入等に係る取組..... 9件
- ・研修会の実施..... 9件
- ・先進地視察..... 7件
- ・企業との協働等による新商品・サービスの開発等 ... 5件
- ・商品開発等..... 3件
- ・マルシェ開催に向けた取組等 3件
- ・その他（市場調査など）..... 2件

が実施されました。その中から、
2つの事例を紹介します。

事例目次

- ・EXPO2025..... 11ページ
- ・AGRI BATON PROJECT..... 13ページ

有限会社庄東ノーサン

話し手：代表 中谷 幸葉 さん

団体情報

所在地	富山県射水市
代表者	中谷 幸葉
設立年	2024年事業承継 (前身農家は1979年創業)
従業員数	8名 (うち女性2名)
特徴	40年以上続いたスプラウト農家を2024年に事業承継し、新体制で事業を再スタート。地域農業の持続性と次世代の担い手育成を重視。



補助の使い方

- 男女別トイレ、休憩室
- 約 300 万円
- ※自己負担も含めた総額事業費は約330万円

一般事業主行動計画

ActionPlan!

※各事業者が策定した一般事業主行動計画のうち、主な目標を抜粋して掲載しています。

- 女性農業者の新確保の人数 3人
- 女性が安心して働き、継続的に活躍できる職場環境の整備 (男女別トイレ、休憩スペースの整備)
- 仕事と育児・家庭生活を両立できる柔軟な働き方の実現 (時短勤務や週休2日のシフト導入)



一般事業主行動計画の詳細はこちら

計画を策定した背景。なぜその目標、取組にしましたか。

40年以上地元で続いていたスプラウト農家を2024年に事業承継し、新体制で再スタートする中で、男女別トイレや休憩スペース等、女性が安心して働き続けるための職場環境整備が喫緊の課題であると認識し、働きやすさと継続就労を実現することを目標に本計画を策定しました。



- Before -

安心して休める空間がない

当社では事業承継に伴い従業員が平均20代に入れ替わった他、単発勤務の女性が働くこともあります。これら従業員等からは、既存の仮設トイレが使いづらく、十分な休憩スペースも確保できていないといった声があり、特に女性従業員自身が安心して当農場で働き続けることに不安を感じていました。

女性が長く継続して働けるよう、就業規則の見直しが必要

女性従業員や富山県のママコミュニティへのヒアリング等を通じ、仕事と育児・家庭生活を両立するには就業規則の変更(産休・育休制度や時短勤務等の整備)や、女性が働きやすい環境が整備されているという対外的メッセージの発信が必要だと分かりました。

- After -



従業員同士で密なコミュニケーションが取れるように

元々コミュニケーションが活発な職場でしたが、男女別トイレや休憩室の整備によって快適な環境で従業員とより密な交流ができるようになり、従業員もとても喜んでいました。継続して持続可能な農家を作っていくためには人材は不可欠で、かつ人が入れ替わっても成り立つ仕組みが必要なので、誰が来ても働きたいと思う場所を用意したいと考えています。男女別トイレと休憩室の設置によってそのスタートラインが切れる環境が整いました。



パートナー団体との連携で富山の地域を元気にしたい

今後は女性が輝ける職場にしたいです。野菜のパッケージやSNS運用等、女性ならではのきめ細やかさが求められるシーンは沢山あります。働きに来てくださった方のライフスタイルに合わせ、やりたいことを実現できる環境を作っていきます。庄東ノーサンは富山の地域活性化に取り組む「一般社団法人とやまのめ」の一員で、農業を通して地域を元気にすることを目指しています。様々なパートナー団体との連携も含めて、女性が意欲や能力を発揮し、安心して長く働ける職場風土を作っていきます。

株式会社Lien du coeur Fermier

(リアンドゥクールフェルミエ)

話し手：代表 岩田 裕聖さん、大橋 淳也さん、
山田 克郎さん

団体情報

所在地	岐阜県各務原市
代表者	岩田 裕聖
設立年	2023年
従業員数	9名(うち女性8名)
特徴	約36aのいちご観光農園。7種類を水耕栽培。1シーズン2万人の来場を目標とした生産・受入体制を整備。



補助の使い方

- 男女別トイレ、女性更衣室、休憩室
- 約 300 万円

※自己負担も含めた総額事業費は約900万円

ActionPlan!

一般事業主行動計画

※各事業者が策定した一般事業主行動計画のうち、主な目標を抜粋して掲載しています。

- 1 管理職に占める女性の割合を50%にする。
- 2 女性農業者（雇用就農者1人、アルバイト等人）を確保する。



一般事業主行動計画の詳細はこちら

計画を策定した背景。なぜその目標、取組にしましたか。



子育て世代の従業員が多く家庭と両立しやすいよう柔軟な勤務体制にしています。子育てが落ち着いた方の正社員登用や、事業拡大に向け新規採用を進めたいと考えています。モチベーション向上を目的に、勉強会や管理職育成のカリキュラム導入をしていく方針です。

- Before -

屋外の仮設トイレを気を遣いながら使用

ハウス屋外に仮設トイレを設置していましたが、お客様と共用のうえ、男女別トイレの数が少ないため、従業員自身のタイミングではトイレが使用しにくい状況でした。さらに屋外設置のため、すきま風が入り込み、雨天時には不便さもあり、快適とはいえませんでした。

落ち着いて休憩や着替えができない

休憩や着替えは、観光農園の受付の裏やハウス内の空きスペースで行っていましたが、空調が行き届かない場所のため、ゆっくり休むことができませんでした。また従業員のロッカーは、誰でも通行できる場所にあり、人目を気にしながら使用する状況でした。

- After -



明るく清潔感のあるトイレ

事務所棟内に従業員用の男女別トイレを各2基設置しました。当農園のいちご狩りのハウス内は、土足厳禁で清潔感を大切にしているのですが、新たに設置した従業員のトイレも同様に明るく清潔な空間となり嬉しく思っています。清掃当番を決めなくても、従業員一人一人が、業務と同様に「常に清潔」を意識し管理しています。採用面接時に、整備したトイレ・休憩室・更衣室を見ていただき、新たに2名を採用することができました。



ほっとできる休憩室と安心して使用できる更衣室

休憩室を設置し、同じ空間で休めるようになったことで、従業員同士のコミュニケーションが活発になりました。業務の改善点を伝え合うなど、良い影響を感じています。エアコンも設置し、快適に過ごせるようになりました。更衣室は、動線を考慮して休憩室の隣に配置しました。女性専用としたことで、安心・安全に使用できるようになりました。いちご柄のラグを敷いて、明るく温かみのある雰囲気になっています。

岡田農園

話し手：岡田 めぐみさん

団体情報

所在地	愛知県知立市
代表者	岡田夏江
設立年	2013年
従業員数	12名（うち女性10名）
特徴	水稲を中心に営んでいましたが、近年マコモダケの生産・加工・販売を中心に、地域資源を活かした高付加価値商品の開発・展開に取り組んでいます。



団体サイト



補助の使い方

- 女性専用トイレ、女性更衣室、休憩室

約 300 万円

※自己負担も含めた総額事業費は約750万円

ActionPlan!

一般事業主行動計画

※各事業者が策定した一般事業主行動計画のうち、主な目標を抜粋して掲載しています。

- ① 計画期間内に女性アルバイトを4名以上新規採用する。
- ② 女性が働きやすい環境整備（女性専用トイレ・更衣室・休憩所など）を開始する。
- ③ 短時間勤務や柔軟な勤務体制を整え、家庭と両立しやすい労働環境を提供する。



一般事業主行動計画の詳細はこちら

計画を策定した背景。なぜその目標、取組にしましたか。



農園専用のトイレ、休憩室、更衣室がなく、トイレは農園代表者の自宅、更衣室・休憩室は倉庫作業スペースの一角や農園代表者の自宅を利用していました。収穫作業は泥が付くやすく、汗をかくことも多いため、作業後に着替える環境整備が必要と考え、女性専用トイレとともに休憩室・更衣室を整備することを目標としました。

- Before -

農園専用トイレがなく代表者の自宅や外部施設のトイレを利用

農園専用のトイレがなかったため、従業員は農園代表者の自宅のトイレを使用していました。しかし、代表者やその家族が不在の際にはトイレが利用できなくなり、従業員は、圃場近隣のコンビニエンスストア等のトイレを利用している状況でした。



倉庫内の作業スペースで休憩

マコモダケの収穫シーズンには、倉庫で収穫後の選別・出荷作業を行っていますが、従業員の休憩場所が確保されていなかったため、倉庫内で休憩をとってもらっていました。そのため、作業している従業員の横で別の従業員が休憩する形となり、従業員が休憩しづらい状況でした。

- After -



従業員の心理的な負担の解消

トイレ・休憩室・更衣室を整備したことで、これまで外部施設を利用していた不便さや心理的な負担が解消され、従業員が安心して働ける環境になりました。予想以上に喜びの声が多く、従業員に負荷をかけていたことに気付かされました。なお、従業員の多くが女性であり、収穫作業の特性上泥汚れや汗を伴う作業が多いため、本事業補助以外にシャワー室も併せて整えました。最近、車通勤の従業員だけでなく、電車通勤の従業員も増えたため、シャワー室の整備も非常に好評です。

休憩室整備で従業員を迎えやすく

休憩室で休憩時間もはっきり休めるようになったことで、作業への集中度が高まり、職場の雰囲気も明るくなりました。また、雇用主としても従業員が安心して働ける職場として自信をもって募集できる体制が整いました。また、今までミーティングも倉庫や屋外で行っていましたが、休憩室を活用して落ち着いた環境で実施しています。今後も女性を含め多様な人材が働きやすい環境整備を継続し、作業効率と安全性の向上を図っていき、長く働いていただける職場にしていきたいです。



全国農業女子EXPO25

話し手：代表 中岡 満代さん、岡田 めぐみさん

団体情報

所在地	埼玉県川口市
代表者	中岡 満代
設立年	2025年
メンバー数	5名（うち5名） 青森県、千葉県、愛知県、 香川県※1）、埼玉県
特徴	地域・世代を超えた農業女子の 連携を通じ、農業の魅力発信を 世界規模で図り、農業の価値創 造と持続可能な農村活性化を目的 としています。



団体Instagram



補助の使い方内訳

- 万博出展 約 31 万円
- ワークショップ 約 52 万円
- SNS研修会 約 2 万円

※1 代表者は埼玉県在住ながら香川県で農業に従事しているため

※自己負担も含めた総額事業費は約86万円

一解決したかった課題一

「初めまして」からのスタート

グループ結成の経緯は、別の農業女子プロジェクトメンバー(※2)のグループから大阪万博出展に声をかけてもらったことから、万博出展に関心を持っていた女性農業者でグループを結成しました。世界規模の大舞台で女性農業者のPRができる機会は滅多にないと感じる一方で、メンバーは初対面だったので、初対面のメンバーで、自分たちのやりたいことを実現できるのか、不安も抱えながらのスタートでした。

※1 農業女子プロジェクトメンバーとは：農林水産省が事務局をしている農業女子プロジェクトに参加している女性農業者

万博後の活動の課題

万博への出展を主な目的として結成したグループであったため、万博終了後も同じ熱意を維持しながら活動を継続できるのかという不安がありました。また、農家の繁忙期と活動時期が重なることから、農作業と並行して、活動の準備を進める必要があり、ワークショップの対応にも偏りが生じたり、限られた人数で運営しなくてはならない状況になることが想定されました。



一補助でこんなことができました！一

いざ！大阪万博への出展

出展は女性農業者の活動について取り上げることにしました。メンバーが全国各地にいるため、オンラインミーティングを重ね、作業分担を行いながら出展準備を進めました。

出展にあたりプレスリリースの配信や、地元新聞社・農政局への働きかけ、SNSでの広報活動を実施した結果、



当日は多くの方にブースへ足を運んでいただき、取材も受けるなど、日本の農業の魅力を広くPRすることができました。SNSを見て遠方から来場された方もおり、非常にうれしく感じました。ポスターやチラシ、自作のプロモーション映像、農産品・加工品を展示し、多様なツールで日本の農業や女性農業者の活動の魅力を発信することを意識しました。来場者一人一人との丁寧な対話を心がけ、質問や相談にも対応しました。様々な国籍の方と交流する中で、日本の農業への関心の高まりを実感することができました。

東京でのワークショップと展示

万博後は、日本の中心である東京でワークショップ（①米袋でエコバッグ作り②オリーブオイルの楽しみ方③マコモダケのしめ縄作り④利きりんご）と農産物・加工品の展示を開催しました。会場は人々の往来を意識し、羽田空港のカフェスペースと上野のコミュニティスペースを選定しました。

実際に開催してみると、万博会場以上に外国の方が多く、英語版の看板を作成することで、多くの方にワークショップを体験していただくことができました。英語が堪能ではなくても、コミュニケーションを図ることができ、自信につながりました。

自分以外の他のメンバーの農産物の説明を担当する場合もあり、それを通じてお互いの農産物への理解が深まりました。その結果、メンバー間でのコラボ商品も誕生しました。活動を重ねる中で、グループとしての一体感もより強まっていきました。



一今後のビジョン一

仲間を増やし活動の幅を広げていきたい

活動を通して、グループで取り組むことの意義や可能性を実感しました。今後もメンバー同士で連携しながら、どのような活動が展開できるのかが楽しみです。新たなメンバーの募集も行い、活動の幅を広げていきたいです。



特定非営利活動法人AGRI BATON PROJECT

話し手：代表 横田 祥 さん

団体情報

所在地	茨城県龍ヶ崎市
代表者	横田 祥
設立年	NPO法人設立2024年（団体設立2020年）
メンバー数	207名（うち女性187名） 36都道府県
特徴	「農業は楽しい！」を子どもたちへ伝え、農業を子どもたちのあこがれの職業にすることを目標に全国のメンバーとともに活動を展開しています。



団体サイト



補助の使い方内訳

- 食育カフェ開催準備 約 50 万円
- 先進地視察 約 20 万円
- 研修会 約 30 万円

※自己負担も含めた総額事業費は約107万円

—解決したかった課題—

対面交流の重要性

200名を超えるメンバーが全国各地にいるため、コミュニケーションは主にオンラインで行っています。LINEのオープンチャット機能を活用し、月に一度はZoomでミーティングを開催するなど工夫を重ねています。しかし、活動への理解や信頼関係をより深めるためには、やはり直接顔を合わせて対話する機会が最も重要であると感じていました。



活動の幅を広げたい

絵本の読み聞かせは、賛同して下さるメンバーや企業が増え、全国的な認知も広がっていると感じています。メンバーが自信を持って活動できるよう、食農教育プレゼンター（※1）の資格が取れる認定講座を設けています。子どもたちに農業をより身近に感じてもらうためには、絵本の読み聞かせに加え、新たな取り組みも必要ではないかと考えていました。



※1 食農教育プレゼンターとは：絵本の読み聞かせという誰にでも身近で簡単なツールを軸に誰もが子どもたちへの食育・食農教育に気軽に取り組むことができる認定講座

—補助でこんなことができました！—

北海道で初めて交流会・研修会を開催！

今回、初めて北海道にてグループの交流会・食育研修会・子どもへの読み聞かせ・先進施設視察を実施することができました。2日間滞在し、1日目に農業学習施設クボタアグリフロント（株）クボタ）の施設内のスペースで、来館者向けに絵本の読み聞かせを行い、メンバー同士でイベントの開催に関するノウハウを共有することができました。読み聞かせの参加者の中からグループに加入して下さる方がいて、お子さんからも「農家になってみたい」との声も上がるなど、有意義な会となりました。その後、グループの研修会を開催しました。活動内容を整理し、食育カフェ実施に向けた具体的なアイデア出しを行いました。私たちにしかできない企画を検討することができ、意欲が一層高まりました。なお、北海道での研修会以外でも、円滑な組織運営について学ぶオンライン研修会も開催しました。デモ実習を行いながら、コミュニケーションスキルを養うことができ、今後の組織運営に活かしていきたいです。

「食育カフェ」の実施に向けて

北海道滞在2日目にクボタアグリフロントの見学を行いました。日本の農業の現状や課題、先進的な取組が分かりやすく展示されており、食と農業の理解を深めることができました。農業経営をシミュレーションゲームで学ぶ体験もあり、子どもにとって興味を持ちやすい形で伝えていくことの重要性を実感しました。併設のカフェでは、文学作品と野菜を結びつけたメニュー紹介など工夫が凝らされており、食育カフェ開催の参考になりました。食育カフェは、全国各地のメンバーが関わりのある農産物直売所で開催する予定です。山形県と長野県では食育カフェ開始に向けたテストを行っており、地元で採れる野菜を使用したお菓子の試作を進めています。メニュー開発に加えて、より興味を持ってもらえるようディスプレイも趣向を凝らしたいと考えています。食育カフェのパンフレットも制作し、各直売所に置かせていただき、認知拡大に繋げていきたいです。

—今後のビジョン—

「食育カフェ」の実施、食育活動を広げていく

食育カフェの実施に向け、準備を進めていきたいと思えます。メンバーそれぞれの地域の特色が表れる取組ができると、今から楽しみです。絵本の読み聞かせについても、引き続きメンバーの募集を行い、食育活動のさらなる拡大を目指していきたいです。



女性グループの活動支援



特定非営利活動法人AGRI BATON PROJECT



全国農業女子EXPO25

特集ページ AGRI BATON PROJECTの これまでの取組

5 YEARS 2021-2025

AGRI BATON PROJECTとは

農業をこどもたちのあこがれの職業にすることをめざし農業女子プロジェクトメンバー（※1）がスタートしたプロジェクトグループです。「農業は楽しい！」をこどもたちへ伝える絵本「あさごはんのたね」を製作出版しました。現在は、地元農業者による食農教育活動を全国展開するオンラインコミュニティで絵本という誰にでも取り組みやすいツールを使い、食農教育活動を取り組みやすいものとして全国へ広げています。

※1 農業女子プロジェクトメンバーとは：農林水産省が事務局をしている農業女子プロジェクトに参加している女性農業者

AGRI BATON PROJECT 発足の経緯



「中学校での将来になりたい職業で農業を挙げた人が誰もいなかった」との知り合いからの報告から、一農家の女性にもできることとして、農業をこどもの頃から身近に感じてもらう取り組みを始めました。



※2 食農教育プレゼンターとは：絵本の読み聞かせという誰にでも身近で簡単なツールを軸に誰もが子どもたちへの食育・食農教育に気軽に取り組むことができる認定講座

5年間で、一番大きな壁だと感じた出来事

任意のグループからNPO法人になったこと

NPO法人化する際は、書類作成等事務手続等大変でしたが、皆で得意なことを作業分担し乗り越えました。グループがNPO法人となったことで、女性農業者がより自信をもって活動でき、学校教育の場や教育委員会に対して話の聞きやすさが増えました。



AGRI BATON PROJECTとして活動をしてよかった!と思ったエピソード

農作物を作っている農家さんが想いを込めてこどもたちに食農教育絵本を読み聞かせたことで、こどもたちが嫌いだった野菜や果物が食べられるようになった話や、読み聞かせ後日、絵本に出てきた野菜や果物が給食に出たときにこどもたちが学校で盛り上がった話を聞いた時に嬉しく思いました。



次の5年間を見据えて、目標やアクションプランを教えてください

活動当初から10年の活動にすることを目標に据えていたので、2030年までに食農教育絵本4冊出版をゴールに設定していました。ありがたいことに多くの人に共感いただいております。いずれは次世代にAGRI BATON PROJECTの活動のバトンを渡したいです。



Challenge! 5年間の歩み：2021年～2025年

2021年



活動として主なトピックスや課題

1冊目の食農教育絵本の出版

「あさごはんのたね」を出版し、食農教育絵本を広めるアンバサダー的役割のAGRI BATON Runnerを組織。日本全国の農業女性・農業関係者、一般の方を繋ぎ、連携。

食農教育絵本を通じた活動の開始に向けオンライン研修会の開催

素人だったメンバーが、読み聞かせ・絵本の歌・手遊びの専門家の研修を通じ、マルシェ等各地での読み聞かせ会の開催が可能に。

オンラインの普及によりグループ活動が全国規模に

コロナ禍の影響により、パソコンが苦手だった方も、研修会等のオンラインイベントへの参加のハードルが下がり、活動が全国規模に広がる。

課題を解決した方法など

1年の成果

2022年

ノウハウ研修会の開催とグループオリジナルアイテムの製作

専門家を迎えて全6回のマルシェ開催のスキル向上の研修会を開催し、マルシェの企画立案や集客方法を学習。

マルシェ開催のためのノウハウ研修会開催

研修を開催し専門家から学ぶことで、メンバーがマルシェ開催に対して自信がついた。

オリジナルアイテム製作で活動の周知が広がる

スキルが向上したメンバーが食農教育絵本の読み聞かせ会やマルシェを開催。オリジナルロゴ・エプロンを製作したことで幅広い周知が可能に。

2023年

食農教育プレゼンター（※2）資格講座開始とグループをNPO法人に

メンバーや食農に関心のある方が食農教育プレゼンターの資格を取得することができる認定講座を開始するとともにグループをNPO法人化した。

食農教育プレゼンターの認定講座を開始

自身をもって食育活動に活躍できる女性農業者を増やしたいという想いから、認定講座を開始。食農教育プレゼンターとして名刺をもつ女性農業者も増加。

活動の継続性を高めるため法人化

グループとしての信頼性向上や会計面でも持続的に活動していくために、NPO法人化した。

2024年

食農教育絵本の出版・研修会開催・広報ツール作成

「きょうのよるごはん」の出版や出版記念報告会を兼ねた組織の発展を考える研修会を開催。オンラインで組織運営のための研修会を実施。

円滑な組織運営のためのオンライン研修会

オンラインでのデメリットであるメンバー間交流の不足やモチベーション低下解消のため、オンラインでの組織運営を学ぶ研修会を2回開催。

ホームページの更新、パンフレット作成

グループの活動をメインで紹介したホームページを作成。活動内容を紹介したパンフレットも作成し、発信力も向上。

2025年

施設見学と研修会・イベントの開催

北海道の農業学習施設クボタアグリフロントにて見学、研修会、イベントを開催。イベントを通して、学校施設以外での絵本を読む機会創出の大切さを実感。

「食育カフェ」事業のための企画検討

学校施設以外での食農教育絵本を読む機会を創出するため、直売所などで「食育カフェ」というコンセプトで、食事の提供と食農教育絵本を読む機会創出を検討。

組織運営のための研修会の実施と来年度の活動に向けた動き

オンラインで活動が継続できるよう円滑な組織運営に必要な人間関係の構築方法を学ぶ研修会を実施。今後の活動として「食育カフェ」の準備ができた。